

必要経費の目安

ご旅行代金の他に別途下記の料金がかかります。
※詳細は、渡航手続き書類にてご案内申し上げます。

◆空港施設使用料 / 国際観光税 / 海外空港税・燃油特別付加運賃 (39,000円) 上記は 2024 年 2 月現在の金額です。航空券の発券時点でレートは変動いたします。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。

◆渡航手続諸費用 (パスポートを新規取得、更新の方): パスポート新規申請代 (5 年用 11,000 円 / 10 年用 16,000 円 / 各自治体の戸籍謄本・住民票発行手数料や写真代別途要) このご旅行には 2024 年 11 月 30 日以降のパスポート有効期限が必要です。(+2 週間以上の有効期限が望ましい)

◆お一人部屋追加料金: 45,000 円 (ホテルは基本 2 名一室です)

※お一人参加で相部屋をご希望の場合、最終的な部屋割りによってはやむを得ずお一人部屋追加料金を頂戴することがございます。予めご了承くださいませ。

◆任意の海外旅行保険

◆超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金

◆個人的費用: 旅程に明記されていないものの費用 (食事代、飲み物代・自由行動時の諸費用等)

◆ご自宅～発着空港までの交通費



ご旅行条件

旅行条件の詳細は「旅行業約款」(募集型企画旅行契約)によります。この旅行は2024年2月1日現在を基準としています。

■旅行契約の解除参加者が最少催行人数に達しなかった場合は、旅行を中止することがあります。

この場合は出発の23日前迄にお知らせします。

<取消料>

お客様都合で旅行を取消す場合は、下記の取消料をお支払いいただきます。

<解除時期・取消料>

契約の解除期日	取消料
31日目にあたる日以前の解除	無料
30日目にあたる日以降の解除	旅行代金の20%
29日目にあたる日以降の解除	旅行代金の50%
旅行開始後の解除または無連絡不参加	旅行代金の100%

ご旅行要項

■旅行代金に含まれるもの

- ①企画手配料金および手配料金
- ②交通費: 旅程に明示した航空運賃、旅程に明示した専用車料金
- ③宿泊費: 下記ホテル又は同等クラスのホテル(弊社基準)基本宿泊料および税、サービス料 1日目マニラ=The Manila Hotel, The Bayleaf Intramuros スービック=Terrace Hotel Subic, Court Meridian Hotel&Suites 3・4日目マニラ(ケソンシティ)=UP University Hotel、B Hotel ※基本2名一室
- ④食事代(朝食4回/昼食3回/夕食4回)
- ⑤見学施設の入場料 ⑥ガイド代
- ⑦現地協力者の謝礼・同行費用・交流代
- ⑧通訳者・講師謝礼・同行費用 ⑨添乗員1名同行費用

■旅行代金に含まれないもの

- ①旅程表以外に行動される場合の交通費、宿泊料、飲食費等
- ②超過手荷物料金: 規定の重量、大きさ、個数を超える分についての手荷物運搬料金
- ④個人的費用: 旅程表に明記されていないものの費用・食事の時の飲み物代・自由行動時の諸費用等
- ⑤航空会社が課す 成田空港施設使用料・国際観光税・海外空港税・燃油特別付加運賃(39,000円)2024年2月現在※航空券の発券時点でレートは変動します。その場合は差額を徴収もしくは返金いたします。
- ⑥海外旅行傷害保険料
- ⑦日本国内の交通費、前泊の費用
- ⑧お一人部屋料金(45,000円)

旅行企画・実施

観光庁長官登録旅行業第84号 JATA正会員

●この旅行に関するお問合せ・お申込みは下記まで



株式会社 富士国際旅行社

〒231-0062神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7
ヒューリックみなとみらい11F-4

総合旅行業務取扱管理者: 西須 輝理

TEL: 045-212-2101 FAX: 045-212-2201

henshu@fits-tyo.com 担当: 西須・金光・山田

営業時間: 月～金曜日 / AM10:00～PM6:00
(休業日: 土日・祝日)

ホームページ: <http://www.fits-tyo.com/>

お申込方法

①【紙でお申込みの場合】下記の予約票にご記入いただき、富士国際旅行社宛に郵送またはFAXでお送りください。予約票が届き次第、旅行社より取引条件説明書面とお申込書を他の必要書類とともにお送りいたします。

②【ウェブで仮予約の場合】下記QRコードにアクセスし、仮予約フォームを送信下さい。

③弊社よりお送りするご案内書面に記載の銀行またはゆうちょ銀行に、**申込金50,000円**(旅行代金内金)をご送金ください。(申込書と申込金の両方の到着をもって正式申込)

④ツアー実施確定後、弊社よりご連絡いたします。

⑤出発2～3週間前に旅行説明会を行います。(オンラインと会場両方可)

き・り・と・り

参加予約票

株式会社 富士国際旅行社 宛

フィリピン 市民と連帯交流の旅

2024年 5月30日(木) 発

パスポート ローマ字表記	性別	生年月日	年 月 日 生れ () 才	ウェブ仮予約はこちらから↓
氏名	男・女	パスポート	有効旅券(パスポート)【有・無】 パスポート番号: 有効期限: 年 月 日	
住所	(〒 -)			
連絡先	【tel】 () - () - () 【携帯】 - - 【e-mail】		【fax】 () - () - ()	



フィリピン 市民と連帯 交流の旅

5日間

旅行期間

2024年 5月30日(木)～6月3日(日)

旅行代金

295,000 円

※費用の他に航空便費用に付随する海外空港税・航空保険料等・成田空港施設使用料・保安料39,000円がかかります。発券時のレートにより変動いたします。差額は返金・又は集金させていただきます。

定員

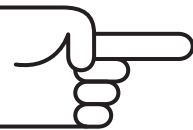
20名様 (最低実施人員12名)

申込締切

4月12日(金)

添乗員

成田空港から同行します。



POINT!

- 01 非核フィリピン連合事務局長 コラソン・ファブロスさんが同行・解説します
- 02 スービック海軍基地跡の見学と基地撤去後の被害解決のために活動する方と交流
- 03 日本軍侵略の歴史や日本軍「慰安婦」の実態について学びます
- 04 フィリピンの伝統料理や音楽、豊かな自然もお楽しみ下さい

中村みずきさん
企画・同行通訳

脱軍事化、脱植民地化を主なテーマに通訳・翻訳、執筆、ツアー企画などをおこなう。訳書にデニ・ムクウェゲ「勇気ある女性たち 性暴力サバイバーの回復する力」(大月書店)

Peace Green Humanity

旅行企画・実施

(株) 富士国際旅行社

観光庁長官登録旅行業第84号・JATA正会員

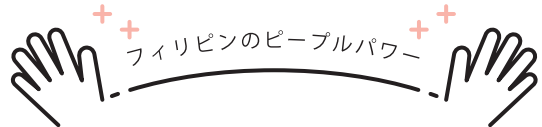
フィリピン 市民と連帯交流の旅 旅程表

日次	都 市	交通機関	行程・宿泊地・食事(朝・昼・夕)
① 5/30 (木)	成 田 空 港 発 マ ニ ラ 着 空 港 発 ホ テ ル 着	航空機 専用車	午前:空路✈️ フィリピンの首都マニラへ (空港集合7:30頃を予定) 【時差:1時間もどる 所要:約5時間分】 マニラ中心部見学 <テーマ:歴史> *リサール公園(市民の憩いの場でもある広大な公園) *リサール・モニュメント(国民的英雄ホセ・リサールの記念像) *イントラムロス散策(旧要塞都市、サンチャゴ要塞) ★夕食(伝統音楽を聴きながら、参加者交流会) マニラ泊 B× L機 DR
② 5/31 (金)	マ ニ ラ 発 ス ー ビ ッ ク 着 ホ テ ル 着	専用車	午前:米軍基地返還を成し遂げたスービックへ ※「非核市民連合」事務局長のコロナソン・ファブロスさんが同行解説 *米軍スービック海軍基地跡 *基地撤去後の被害解決のために活動する方々と交流 ◆活動家の方々と交流昼食 スービック泊 BH LR DR
③ 6/1 (土)	ス ー ビ ッ ク 発 バ タ ー ン 着 バ タ ー ン 発 マ ニ ラ 着	専用車	午前:原発をストップさせたバターンへ *市民運動で稼働を止めたバターン原発(外観) *マウントサマツシュライン(『戦時の勇気を讃える慰霊堂』) *「バターン死の行進」(日本軍による死の行軍)モニュメント 午後:再びマニラへ移動(約3時間) マニラ(ケソン)泊 BH LR DR
④ 6/2 (日)	ホ テ ル 発 ホ テ ル 着	専用車	午前:日本軍「慰安婦」の証言者であるロラの皆さんと、マルコス独裁時代の記憶と記録をとどめる英雄記念博物館にある記念碑前にてお会いし、お話を聞きます。 ※「ロラ」はタガログ語でおばあさんの意 午後:マーシャルロー(戒厳令)博物館を、フィリピン大学の教授で長年、反核運動、米軍基地反対やバターン原発反対闘争に取り組んでいるローランド・シンブラン教授のご案内で見学します。 <<フィリピンと日本 連帯の夕べ> *コロナソンさんの「非核フィリピン連合」のオフィスを訪問 *反核平和や気候変動問題に取り組む若手活動家と交流 マニラ(ケソン)泊 BH LR DR
⑤ 6/3 (月)	ホ テ ル 発 空 港 着 マ ニ ラ 発 成 田 空 港 着	専用車 航空機	午前:集合まで自由行動 昼:専用車でマニラ空港へ 空路✈️ 成田空港へ 【時差:1時間すすむ 所要:約4時間30分】 成田空港到着:午後20時ごろ予定 BH LX DX

ご注意 現地の都合により、訪問順序・日時が入れ替わる場合がございます。
 ●利用航空会社 :フィリピン航空、エアチャイナ、日本航空、全日空運輸など
 ●宿泊予定ホテル:1日目マニラ=The Manila Hotel、The Bayleaf Intramuros スービック=Terrace Hotel Subic、Court Meridian Hotel&Suites 3・4日目マニラ(ケソンシティ)=UP University Hotel、B Hotel
 ●旅程表のマーク:B=朝食、L=昼食、D=夕食、H=ホテルで、R=レストランで、X=自由食、機=機内食

コラソン・ファブロスさん

弁護士で活動家。非核フィリピン連合の事務局長。原水爆禁止世界大会にフィリピン代表として参加している。今回のツアーに同行いただき、フィリピンでは市民運動はどのように広がったか、米軍基地返還後、現在ではどのような問題が起こっているか、お話を聞きます。



1986年、独裁的なマルコス政権に抗議する約100万人の市民が集まり、その大きな動きが政権を退陣まで追い込んだ「エドゥサ革命」。この「ピープルパワー(人民の力)」の運動は、原発稼働の阻止、米軍基地撤去のたたかいかにも発展していきます。米軍基地については、米比軍事基地協定が1991年期限切れとなるとき、ピープルパワーの動きを受け、上院議員の12対11の反対で協定延長が否決され、米軍基地撤退が決まりました。市民が社会を動かしたピープルパワーの運動は、様々な団体がつながりながら、今も続けられています。

フィリピンで「慰安婦」にされた女性たち

日本軍は、1941年12月、アメリカ領であったフィリピン・ルソン島へ上陸し、直ちにマニラを陥落させ、1942年1月3日から、軍政を実施しました。日本軍の軍政下で、フィリピン人は激しいゲリラ戦を展開し、抵抗運動を行いました。日本軍はゲリラ討伐を理由に、残酷な作戦を実行しました。フィリピンでのBC級戦犯裁判では、起訴381件の内、住民虐殺が138件、強姦が45件と多数を占めています。マニラをはじめ、占領地の各都市には軍慰安所がつけられ、日本人、朝鮮人、中国人の慰安婦が送り込まれましたが、現地のフィリピンの女性も慰安婦にされていました。また、軍の占領地域で現地部隊が一般女性を強姦した上に、暴力的に拉致・連行して、駐屯地の建物に監禁し、一定期間連続的に強姦をつづけたことも多かったことが証言されています。そのような女性の中には父や夫を目の前で殺された人も少なくありません。(出展:デジタル記念館慰安婦問題とアジア女性基金HPより) 慰安婦にされた女性たち-フィリピン/https://www.awf.or.jp/1/philippine-00.html

スービック元海軍基地跡

マニラから北西へ車で2時間半。かつて米海軍の世界最大規模の施設といわれた基地がありました。15,000haの陸地を持ち、山間部が多くを占めています。山々は空からの射撃訓練場にも使用されていました。

1991年のフィリピン上院決議に基づき、フィリピンに返還後、「経済特区」に指定。複合リゾートが建設され、基地に頼らない経済発展が実現しています。

一方で、長く米軍管理下にあった湾周辺は、基地返還後も残留化学物質や重金属類、石綿、PCBなどに起因する深刻な環境汚染被害が起こり、住民は苦しめられました。また、民間利用されている港に米海軍のミサイル駆逐艦や輸送艦などが訓練や補給のため頻りに寄港しており、返還されたにもかかわらず、訓練や抑止力を理由に基地の跡地が再び使用されていることに、地元住民は反発を強めています。



1990年のスービック基地

バターン「死の行進」

1942年、アメリカ軍の主防衛線はバターン半島の付け根近くにあり、日本陸軍が攻撃を続けていました。1月下旬にアメリカ軍防衛線は半島の中央部分まで後退。サマツ山麓のカボット台がバターン戦の最激戦地となりました。同年4月3日からアメリカ、フィリピン(米比)軍と日本軍の総力戦が行われ、4月9日、サマツ山の陥落により米比軍は降伏。日本軍はバターン半島を占領した後、捕虜となった米比軍兵士約7万6000人を捕虜収容所への移送のため最長100数キロ歩かせました。道中、マラリアなどの病気や、日本軍の監視兵による虐待、殺害などにより、多くの死者を出したことから、「死の行進」と呼ばれています。死者数は7000人とも、1万人とも言われ、収容所での死者も合わせると約3万人ともされています。この「死の行進」は日本軍の残虐性を伝える事件として知られており、フィリピンでは、バターンが占領された4月9日を、戦闘や死の行進の犠牲者を悼む日として祝日としています。



バターン死の行進のモニュメント

バターン原子力発電所

1984年マルコス政権下でアメリカの肝いりで作られた原発は、1986年のアキノ政権期、近くに地震断層と活火山があることから安全ではないとして営業開始を許可されず、その後一度も動いていません。再稼働の議論も浮上しましたが、福島原発事故や市民の根強い反対運動により、現在も稼働していません。



タービン(バターン原発内)

フィリピン基本情報

【正式国名】フィリピン共和国 【人口】約9401万人 【言葉】タガログ語
 【時差】日本より1時間遅れ 【通貨】フィリピン・ペソ
 【食べ物】歴史的に様々な国の影響を受けているフィリピンでは多国籍料理が楽しめます。主食は米で、味付けにはココナスや魚醤がよく使われます。南国ならではのフルーツも魅力的です。
 【気候】フィリピンの気候は熱帯性気候。年間を通じて暖かく、年平均気温は26~27℃。6~11月が雨期、12~5月が乾期に分かれています。

現地の気温 6月

都市	最低気温	最高気温
マニラ	26℃	32℃
東京	19℃	26℃

